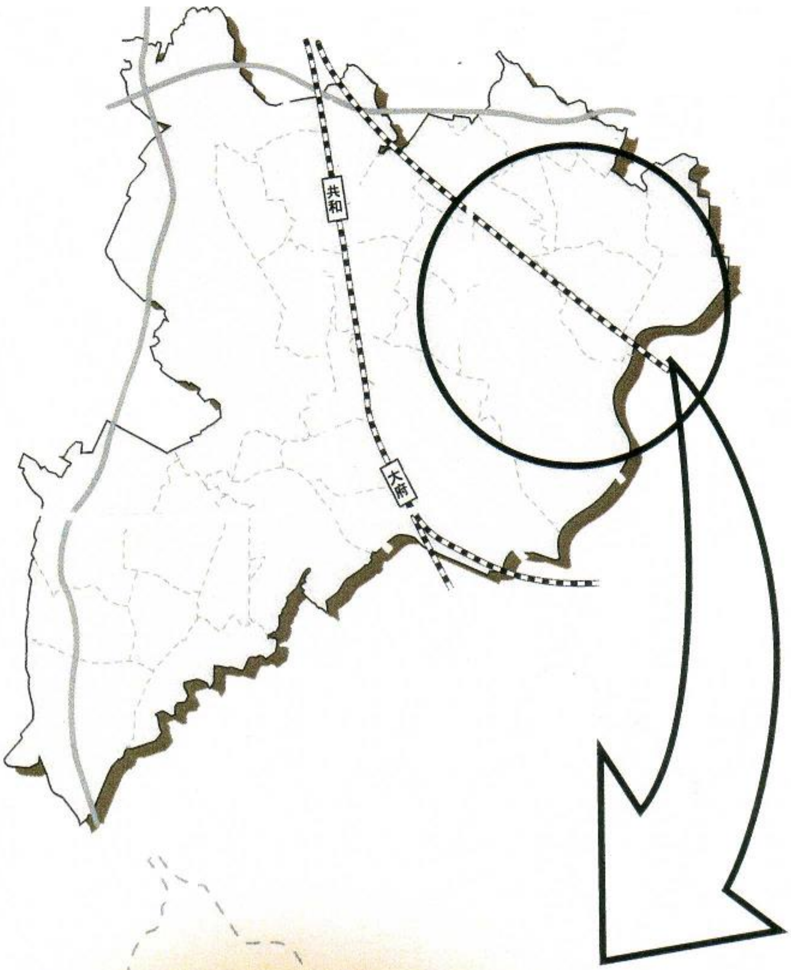
ふるさとガイドおおぶ

神田

Aコース

大府市地図



①藤井神社

②明神樋門

③普門寺

④極楽寺

⑤賢聖院

⑥山之神社

⑦五箇村川と改修之碑

⑧神明社

⑨光善寺

⑩早川ぶどう園

⑪二ツ池公園

⑫至学館大学

⑬大府みどり公園

モデルコース

【A】③普門寺→②明神樋門→①藤井神社→近隣名所

【B】⑩早川ぶどう園→⑪二つ池公園→⑫至学館大学→近隣名所

【C】⑦五箇村川→⑤賢聖院→⑥山之神社→近隣名所

【D】⑦五箇村川→⑧神明社→⑨光善寺→近隣名所

【E】⑬大府みどり公園

藤井神社(1) ふじいじんじゃ

▲藤井神社拝殿

▲天神社

祭神は、天照皇大神・須佐之男命・大山祇命の三柱を祀る。

境内社　天神社・秋葉社

創建の年代は明確でないが、「社伝」によれば、建久2年(1191)源頼朝の勧請といわれる。建久元年10月3日に、頼朝は鎌倉を出発し、鳴海を経、同月25日野間で亡父義朝の菩提を弔い、翌2年鎌倉への帰途にこの地へ藤井大明神を勧請したと伝える。

明治5年郷社に列せられ、現本殿(神明造り)は大正8年の改築である。

明治19年、地内の字中村から「藤井宮大明神御酒瓶子」と刻まれた鎌倉時代の陶製瓶子(昭和45年県文化財に指定)が出土した。お神酒を献ずる器であり、すでに鎌倉時代の一社をなしていたことを証する好資料である。

藤井宮御酒瓶子(県指定文化財)	鎌倉時代
祭礼用山車(市指定文化財)三台	江戸時代
三番叟(市指定文化財)	

藤井神社(2)　ふじいじんじゃ

▲三番叟

藤井神社には3台の山車があり、口伝によれば、江州長浜より譲り受けたものといわれるが記録はない。三番叟とともに、祭礼を盛りあげている。3台の山車はいずれも市の文化財として指定されていて、それぞれ神社に近い三つの地域、寺田組、中村組、石丸組で管理している。

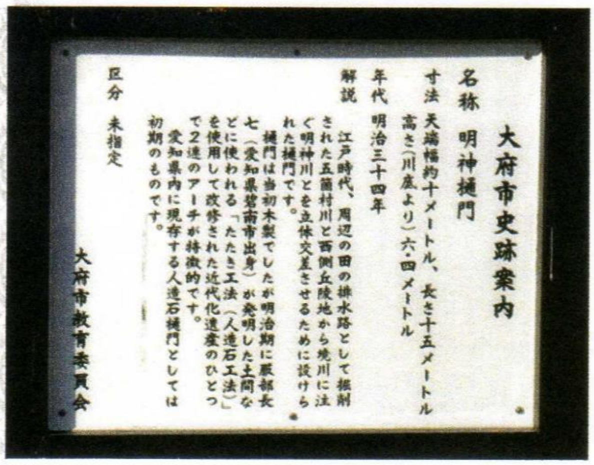
これらの山車を練り回した後に、神社境内に列座する場でもある例大祭は盛大で、子供たちによる巫女神楽や三番叟が奉納される。

・祭礼日 10月第2日曜日

・三番叟は能、狂言を元として、天地人が三拍子揃って、天下泰平、国土安泰、五穀豊穣を祈願する、古式ゆかしい舞楽である。

横根の三番叟の起源は定かでないが、山車の製作を合わせて考えると、江戸中期頃から演じられてたと推測され、子供により演じ、祭礼に奉納される。

明神樋門　みょうじんひもん



▲大府市にある　明神樋門

コンクリート以前の長七たたきで作ってある産業遺産

江戸時代の樋門はすべて木製だったので災害等により度々破損したため、川の維持管理・改修などは村人にとって大変であった。

明治24年(1891)の濃尾地震、明治29年の大洪水と続けての破損に、村は当時話題となっていた「長七たたき」を使っての改修工事に着手した。

「長七たたき」とは服部長七が考案した人造石工法で、日本の治水工事に大きな貢献を果たした。消石灰と真砂（サバ土）とを混ぜて、水で練ってたたき固めたもので、水中での凝固を可能にし、コンクリート工法が普及するまで広く使用された。

明神樋門は、驚くべきことに竣工から110年以上経過した現在も堅牢な姿を留めている。県下に残る人造石工法の樋門では最初期のもので、市域に残る貴重な近代化遺産の一つである。樋門の上部は明神川が流れ、天端幅約10m、長さ15m、高さ6.4mである。

普門寺　ふもんじ

▲本　堂

▲十一面観音堂

御本尊　十一面観世音菩薩（市指定文化財）

曹洞宗　山号　海雲山

知多四国霊場三番札所

大府七福神（大黒天）

白鳳時代、この辺りは海岸であった。夜ごと海上に光るものがあり、村人の関心を集めていた。ある夜、慈悲深い老人の夢に観音菩薩が現れて、「速やかに堂を建て我を安置せよ」とお告げがあった。翌朝、海岸に出て観音立像を発見し、白鳳元年(673)頃堂宇（観音堂）を建立して安置したという霊験譚が残っている。後に普門庵と改称し、元和元年（1615）頃普門寺として再興。像は頭部をやや傾けた像容で、十一面観世音菩薩立像である。高さ104cm、檜材の一木造りで17年に1度開帳される厨子入りの秘仏で、市指定文化財である。また、明和7年（1770）に板刻された「当山由来」の板木を所蔵。境内は鐘楼門を構え、本堂・観音堂・大師堂があり、陶製の観音立像が辺りを鳥瞰する。